

令和6年度第2回 古賀市男女共同参画審議会会議録

○日時：令和6年8月27日（火） 15時30分～17時10分

○場所：古賀市役所第2庁舎 302会議室

○傍聴者：0名

○出席者（敬称略）：倉富、松本（正）、阪井、吉村、新田、小田邊、松本（留）、金子 計8名

欠席者（敬称略）：松尾、山田 計2名

事務局：市民部長、人権センター課長、男女共同参画・多様性推進係係長

○配布資料

- ・資料1-1, 2：令和6年度古賀市男女共同参画計画実施状況報告書（令和5年度事業分）点検・評価（案）について
- ・資料2：令和6年度古賀市男女共同参画計画（令和5年度事業分）質問事項（各課からの回答）
- ・資料3：令和6年度古賀市男女共同参画計画（令和5年度事業分）効果的な取組方法への助言

1. 内容

- (1) 市民部長あいさつ（柴田市民部長より）
- (2) 会長あいさつ（倉富会長より）
- (3) 会議公開取扱いについて（事務局より）
- (4) 令和6年度古賀市男女共同参画計画実施状況報告書（令和5年度事業分）に関する点検・評価の取りまとめについて

<基本目標Ⅰ ジェンダー平等の意識向上>

委員：一行詩の事業に関しては、男女共同参画を考える機会になる事業と思う。一般向けの募集はどのようにしているのか。

事務局：広報やホームページを活用し募集している。

委員：「老人会や婦人会、自治会、公民館活動などの団体から募集をはかると」ともあるように、区長会を通じて応募、回覧板で回すなどしてもいいのでは。

委員：ジェンダー平等意識の向上に向けた啓発重要。だが、課題については毎年同じ内容となっているが、令和5年度事業の工夫点はどこなのか。

事務局：令和4年度までは、小規模セミナーを複数回行っていた。課題として参加者の固定化があったことから、令和5年度は小規模セミナーを行わず、著名人を講師に迎え、セミナー開催を1回のみとした。結果、若い世代、小学生の親子ずれ等、新たな参加者に繋がった。また、まちづくり出前講座のメニューを一新。区長会、企同推など、ターゲットを絞った研修会を開催した。

委員：啓発が一番大事な要素と考える。フォーラムに参加して、講師からの男性の家事への参画についての話は「事実に基づく話」は面白く良い内容だった。講演内容が「おもしろい」だけでなく「あたりまえ」になっていく社会に繋がると思う。講師選定の大切さも感じた。また、まちづくり出前講座の開催については、「リーパズプラザに行かなくても、話を聞くことができる」機会を大切にしてほしい。

委員：計画と実施状況の内容・報告がかみ合っていない。できていないことについては「できていない」ことを、その理由を書いていくことが必要で、そうしていくことが課題解決につながっていくのではないか。

会長：事務局の方で整理を行うように。

<基本目標Ⅱ あらゆる分野における男女共同参画の実現>

委員：男性の育児休業取得について、平均取得日数、また個別の取得期間について想像以上の取得日数だった。今後も継続し取得できるような取組を続けて欲しい。

委員：女性管理職の数について、質問への回答の中に「職員の意向を確認している」「職責が重くなること」や「仕事と家庭の両立に対しての不安感」が書かれているが、女性職員の意識に対しての変革、変容を行う方策は何か考えているか。

事務局：現在の部長・課長職につく年代に女性職員の人数が少ない状況がある。現在の係長級では、男性・女性の比率がほぼ同数になっていることから、これから先は、徐々に男女比が同じになっていくと考えている。

委員：仕事と家庭の両立に対しての不安感解消のため、女性職員の意識変革が起こる研修会を実施してはどうか。

<基本目標Ⅲ 男女の自立と社会参画に向けた環境整備>

委員：「子どもを産む」「女性が社会進出する」という、両方を求められる女性の大変さ。

委員：民間企業での女性の育休取得後の社会復帰はどのようになっているのか。

<基本目標Ⅳ あらゆる暴力の根絶と被害者支援>

特に意見等なし

<基本目標Ⅴ 性別にとらわれない多様な生き方の尊重>

委員：パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度の導入、独自の啓発方法で古賀市は先んじて取り組んでいると思う。今後も継続を。

<効果的な取組方法への助言>

委員：企業の男性の育児休業取得や女性の両立支援の状況確認について調査することができるのか。

事務局：古賀市入札資格申請の際にアンケート調査、また令和2年度に実施した男女共同参画に関する意識調査結果から見る事ができる。

委員：事業の実施状況を単年で評価するのではなく、経年で評価することで計画の実現につながると考える。また、啓発について「いのち輝くまちこが」講演会で「男女共同参画」に関する講師を招聘することはできないか。

事務局：講師選考について、持ち帰り検討したい。

委員：自身が働いている時「ワークライフバランス」は全く考えず働き、定年後生活環境の変化で「家庭内の仕事を自分がすること」になった。家庭の中の事を自分が担うことで学びを得、家族とコミュニケーションがとれた。そして、一つ一つ解決につながっている。学習の足りなさを補うのにセミナーのような大きな事でなくても、身近な事で学びを補うことができ、コミュニケーションがとれている。

<総括>

事務局：総括の内容の説明。

委員：シンプルな内容の方がいいのでは。

2. 事務局からの連絡事項

報酬・費用弁償の支払いについて

3. 閉会